

2. 事業の状況

1) 全国大会・支部大会の開催

会員の研究発表、分科会等を含む全国大会を開催すると共に支部の大会開催及び支部活動の充実を進めた。

(1) 全国大会

- ・ 開催日程 平成23年 5月21日（土）：通常総会，震災復興支援緊急集会 等
11月12日（土）：震災復興支援ワークショップ，ポスター展示，学生公開アイデアコンペ作品展示会，臨時総会，表彰式，公開シンポジウム，交流会 等
11月13日（日）：研究発表会，ミニフォーラム，ポスター展示，学生公開アイデアコンペ作品展示会，分科会 等
- ・ 開催場所 東京農業大学世田谷キャンパス
- 参加者数 延 683 名
- 研究発表件数 91件

・大会内容（報告）

平成23年度日本造園学会全国大会は、東日本大震災の影響により一部が延期され、5月21日（土）及び11月12日（土）～13日（日）に東京農業大学世田谷キャンパスを会場として開催された。

5月21日は、百周年記念講堂において、近藤三雄大会運営委員長および武内和彦会長の大会開催の挨拶の後に、宮城俊作企画担当常務理事の司会・進行のもと、10時30分より12時まで武内会長を議長として通常総会が開催され、提出された第1号議案から第8号議案が審議の結果、全てが満場一致をもって賛成され原案通りに承認された。なお、役員改選にともない選任された新理事会で、増田昇会長のほか、副会長2名、常務理事5名が選定された。13時から14時30分まで平成22年度日本造園学会賞の発表ならびに表彰式が行われ、日本造園学会賞4名（研究論文部門1名・技術部門1名・計画設計部門2名）、同奨励賞8名、同上原敬二賞1名、同特別賞1団体・1グループ4名に授賞された。続いて日本造園学会賞受賞者4名の記念講演会が行われた。そして、15時からは、「震災復興支援緊急集会」（公開）が開催された。（参加者250名）。

11月12日は、1号館4階の5会場にて、10時から12時まで震災復興支援ワークショップが開催され、「造園分野の視点から、東日本大震災をいかに記録に止め、何を学ぶのか」「復旧、復興支援をサポートする造園技術、緑化技術の展開」「計画設計分野からの復興支援計画の提案とその具体的展開」「コミュニティ再生の支援とその具体的展開」「東日本大震災復興支援学生ワークショップ報告」の5テーマが行なわれた。併せて、9時30分から18時30分までポスター展示および学生公開アイデアコンペ作品展示会がそれぞれ開催された。午後からは百周年記念講堂において、金子忠一企画担当常務理事の司会・進行のもと、13時より13時30分まで増田昇会長を議長として臨時総会が開催され、提出された第1号議案から第3号議案が審議の結果、全てが満場一致をもって賛成され原案通りに承認された。14時から14時30分まで「学生公開アイデアコンペ」「学生小論文コンクール」審査結果発表ならびに表彰式が行われ、学生公開アイデアコンペでは最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作4点、日産賞1点、高校生作品奨励賞1点、学生小論文コンクールでは、学生の部において最優秀賞1編、優秀賞4編、佳作3編、高校生の部において最優秀賞1編、優秀賞3編、佳作3編に授賞された。続いて、14時30分から17時30分まで公開シンポジウム「2050年の国土創成にむけて—災害からの社会資本の再生—」

が開催された（参加者 234名）。18時からレストラン「すずしろ」にて、交流会が開催された（参加者101名）。

11月13日は、1号館4階の6会場にて、9時30分から16時45分まで研究発表会が開催され、24セッション・91件の発表が行われた。また、11時15分から16時45分まで2会場でミニフォーラムが開催され、「自然公園のリスクマネジメント：事故の実態と利用者の認識」「高速道路造園の過去・現在・未来をつなぐ」「高度専門職業人としての環境・造園系技術者養成のあり方（その2）」「東北地方太平洋沖地震にみる海岸保全の展望～沿岸域の土地利用と海岸生態系」「ランドスケープにおける森林美の今日的実践」「造園学会COP10 学生会議」の6テーマで行われた。さらに、12日に引き続きポスター展示および学生公開アイデアコンペ作品展示会が開催され、ポスター展示については12時45分から13時30分までコアタイムが設けられた。そして17時から18時30分まで6会場で分科会が開催され、「新時代に向けたランドスケープマネジメント」「ランドスケープ教育と資格認定についての東アジア連携の可能性」「“アーバニズム”とどう向き合うか？その9 生存のランドスケープ」「市街地における集合住宅の緑の価値と課題を考える」「2050年生物多様性の世界」「公園遊具のリスクマネジメントの未来をみつめて」の6テーマで行われた。

以上、3日間にわたる全国大会の参加者は、総数683名を数え、盛況のうちに終了した。

(2) 関東支部大会

- ・開催日程 平成23年10月15日(土)、16日(日)
- ・開催場所 10月15日：千葉大学松戸キャンパス(千葉県松戸市)
16日：千葉大学松戸キャンパス・松戸市戸定歴史公園(千葉県松戸市)
- ・参加者数 10月15日：150名 16日：30名
- ・大会内容

《事例・研究発表会》

口頭発表は16日午前9時30分から12時まで4会場にて開催された。ポスター発表は13時30分から15時まで開催された。各会場とも活発な議論が行われた。ポスター発表では発表者が所定の時間に研究内容を概説するポスターツアーが行われた。

本大会では優れたプレゼンテーション(口頭、ポスターとも)に対して表彰を行った。ベストプレゼンテーション賞として杉山愛子氏(千葉大学)、プレゼンテーション奨励賞として諏訪正晃氏(江東区)、石川有生氏(東京農業大学)、中島 薫氏(千葉大学)が表彰された。

《学生デザインワークショップ》

15日15時から17時までデザインワークショップ「震災・スケール・時間—Emerging Ground」が開催され、首都圏の大学に在学する学生達がランドスケープデザインの実務者をチューターとして制作に取り組んだ成果が発表された。参加者はおよそ80名であった。発表に対して活発な意見交換が行われた。

《デザインコンペ作品展示》

15日には会場内で「千葉大学園芸学部創立100周年記念館周辺のランドスケープデザインコンペ」 出展作品の展示が行われた。

《交流会》

7日17時15分から交流会が開催され、参加者相互の交流と親睦を図った。参加者数はおよそ80名であった。

《造園遺産見学会》

16日10時から、戸定歴史公園を見学し、齋藤洋一氏(松戸市戸定歴史館)による今後の保全活用についての

説明を受けた。その後、千葉大学松戸キャンパスを見学し石井匡志氏(アゴラ造園・関東支部幹事)による庭園群の説明があった。

《現場セッション&ガーデンカフェ》

見学会後の16日12時から13時まで千葉大学松戸キャンパス内のフランス式庭園にて、現場セッションが行われた。高橋盛男氏(松戸まちづくり交流テント村)、木下 剛氏(千葉大学・関東支部幹事)、菅 博嗣氏(あいランドスケープ研究所・関東支部幹事)がモデレータとなり、参加者を交えて戸定が丘・千葉大学松戸キャンパスの価値と活用法について活発な意見交換が行われた。

(3) 関西支部大会

- ・開催月日 平成23年10月29日(土)～30日(日)
- ・開催場所 神戸市(兵庫県中央労働センター(29日)、相楽園会館(30日))
- ・大会内容

10月29日(土)に研究・事例発表セッション(口頭発表、ポスター発表)、ランドスケープ遺産研究会、関西支部賞発表・表彰式、幹事会、支部総会が、30日(日)に見学会とシンポジウムと交流会が行われた。大会1日目は84名(うち学生39名)、大会2日目の見学会は21名(うち学生8名)、シンポジウムは80名、交流会は44名(うち学生8名)の出席があった。

《研究・事例発表セッション》

29日10時よりと13時30分より17時まで2会場で17件の口頭発表があった。14時40分より15時40分までは13件のポスター発表が行われた。いずれの会場でも充実した発表が行われ、出席者の活発な議論が繰り広げられた。また、発表要旨集に広告掲載を募集し、13社から得た。

《支部総会》

29日12時15分から13時まで、宮前保子支部長による議事進行のもと以下の報告と協議が行われ、全件異議なく承認可決された。

- ・平成22年度会計報告および会計監査報告
- ・平成23年度事業経過報告
- ・平成24年度事業計画(支部大会を京都にて開催する)
- ・兵庫県新行財政構造改革推進方策(第2次)への支部としてのパブリックコメント提出後の経過報告

《ランドスケープ遺産研究会》

29日15時50分より17時まで、井原縁(奈良県立大学)、若生謙二関西支部副支部長(大阪芸術大学)の進行によるランドスケープ遺産研究会が行われた。関西支部から福原成雄(大阪芸術大学)、岡田昌彰(近畿大学)、福井亘(京都府立大学)ならびに招聘した田中修司(和歌山県教育委員会)の各パネラーからの話題提供があり、重要性と緊急性の考え方についての議論が行われた。

《関西支部賞発表・表彰式》

29日17時より17時15分まで、昨年度からの取り組みである平成23年度日本造園学会関西支部賞の発表と表彰式が行われた。支部長、副支部長、口頭発表の各座長による選考の結果、口頭発表の第1会場からは山田真理子(大阪府立大学)、第2会場からは杉村匡亮(大阪府)、ポスター会場からは東日本震災復興支援に

おける兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科・淡路景観園芸学校の取り組みの発表が選出され、表彰を受けた。

《見学会》

30日9時30分から12時まで、阪神淡路大震災復興まちづくりをテーマとして、南芦屋浜災害復興公営住宅、神戸市深江地区まちづくり、同松本地区まちづくり、神戸市震災復興記念公園「みなとのもり公園」の見学を行った。

《シンポジウム》

30日13時30分から16時30分まで、「阪神・淡路大震災と新潟県中越地震の経験から、東日本大震災の復興に向けての提言」をテーマに、第一部では、日本造園学会関西支部ワーキングチームからの「阪神・淡路大震災からの復興の取り組み」のプレゼンテーションの後、澤田雅浩（長岡造形大学）からは「新潟県中越地震からの復旧・復興の取り組み」、勝倉和男（勝倉造園）からは「東日本大震災からの復旧・復興の取り組み」の話題提供者からの報告が行われた。第2部パネルディスカッションでは、中瀬勲（兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館）コーディネーターのもと、多様な分野のパネリストによる討議があり、阪神・淡路大震災復興過程に関わってきた市民や専門家が、東日本大震災の被災地に向けて、さらに支援の場を拡げつつあり、この取組みは全国に波及していくことが期待されるとシンポジウムのとりまとめが行われた。

《交流会》

30日17時から19時まで、交流会が開催された。中瀬元学会長・支部大会実行委員長による挨拶に始まり、終始和やかな雰囲気の中、活発な交流が行われた。最後に、支部大会実行委員会副委員長田中充副支部長の挨拶にて閉会とした。

(4) 九州支部鹿児島大会

- ・開催日程：平成23年5月7日～8日
- ・開催場所：鹿児島大学（鹿児島市郡元一丁目21番24号）、吉野公園（鹿児島市吉野町7955番地）
- ・大会内容（報告）

平成23年度日本造園学会九州支部鹿児島大会は、九州新幹線鹿児島ルート全線開業を記念すると共に、全国都市緑化鹿児島フェアの開催に併せ「都市の風格・風景・個性」を大会テーマとし、鹿児島大学および第28回全国都市緑化かごしまフェアの会場である吉野公園で開催した。大会実施にあたっては実行委員会を組織し、事務局を社団法人鹿児島県造園建設業協会に設置した。また、都市緑化機構との共催で行った。第1日目は、話題提供、研究・事例報告会（口頭発表、ポスター発表）、総会、幹事会、ランドスケープ遺産ワークショップ、そして、交流会が行われた。2日目は花かごしま2011ステージで基調講演、公開シンポジウムおよび見学会（都市緑化かごしまフェア会場）が行われた。

《話題提供》

5月7日13:00から13:30まで、小野寺浩鹿児島大学学長補佐から、「日本の自然 鹿児島自然」というテーマで、話題提供が行われた。

《研究・事例報告会》

13:40から17:20まで研究・事例報告会を実施した。口頭発表は2会場で22件、ポスター発表は10件で、合計32件である。参加者は一般126名、学生26名、合計152名の参加が得られ、活発な議論が行われた。

《支部総会》

11:30から12:00まで、矢幡久支部長を議長とし、執行英利氏と平岡直樹氏を議事録署名人として、平成23年度九州支部総会が行われた。支部長および本部役員の高梨雅明副会長の挨拶の後、平成22年度支部総会議事録の承認、事業報告、会計決算・監査報告、平成23年度予算について了承された。支部規定の変更として副支部長3名を若干名とすることも承認された。続いて、本学会の公益社団法人化、支部新役員、九州・沖縄ランドスケープ遺産の取り組み、東日本大震災に対する支部活動、および九州支部平成24年度宮崎大会について報告が行われた。

《ランドスケープ遺産ワークショップ》

17:30から18:20まで、平成22年11月の熊本大会を期に始められたランドスケープ遺産インベントリーづくりに関し、取り組みや応募案件の状況等について情報の共有と意見募集が行われた。

《交流会》

18:30から交流会が開かれ、会員のほか多くの関係者、108名が参加して情報交換と親睦が行われた。

《基調講演・シンポジウム》

5月8日の基調講演は10:00から10:45まで、東京都市大学教授の涌井史郎氏を講師に、「生態環境都市の実現」と題し講演を頂いた。シンポジウムは10:45から12:30まで「花と緑 鹿児島新時代」のテーマに沿って、小野寺浩氏のコーディネートのもとに、鹿児島大学特任准教授の岡野隆宏氏、NPO法人「グリーングラ」の理事の落崎ひとみ氏、(株)「グリーングラ」の代表取締役の賀来宏和氏、MBC南日本放送局リポーターの柴さとみ氏、(社)鹿児島県造園建設業協会会長の間世田武裕氏、そして、南九州大学環境園芸学部の永松義博氏から話題提供が行われた。国営吉野ヶ里歴史公園事務所の井村久行氏、涌井史郎氏より活発な意見が出され、今後の鹿児島のランドスケープについて議論が行われた。

《見学会》

都市緑化かごしまフェア会場の見学が行われ、合計39名の参加者が得られた。

(5) 北海道支部大会

- ・開催日程：平成23年10月8日（土）
- ・開催場所：札幌市立大学サテライトキャンパス（北海道札幌市）
- ・大会内容（報告）

平成23年10月8日（土）に、支部会員、一般参加者99名の参加を得て、第15回北海道支部大会が開催された。プログラムは、研究・事例報告会、ポスターセッション、北海道学生セッション、北海道支部総会、シンポジウム（公園緑地の防災機能を再考する：寒冷地の被災を考える）である。

《研究・事例報告会》

研究・事例報告として2会場で12件の口頭発表、および4件のポスター発表が行われた。

《北海道学生セッション》

学生による18件のポスター発表が行われた。審査員による審査を行い、調査・研究部門で優秀作品賞1点、佳作2点、特別賞1点を選定して表彰を行った。

《支部総会》

平成22年度事業および会計報告、平成23年度事業計画及び予算案についての協議が行われ、いずれも異議なく承認可決された。

《シンポジウム》

「公園緑地の防災機能を再考する：寒冷地での被災を考える」

パネリスト

森山雅幸氏（宮城大学）

橘俊光氏（兵庫県県土整備部）

岩井健治氏（北海道建設部まちづくり局都市環境課）

長谷川正彦氏（札幌市環境局みどりの推進部みどりの推進課）

コーディネーター

坂井文氏（北海道大学大学院）

《交流会》

北海道造園緑化建設業協会の有志の協力により、パネリスト、日本造園学会増田昇会長を交え、44名の参加で、和やかに交流会が行われた。

(6) 東北支部大会

- ・開催日程：平成23年10月15日（土）～16日（日）
- ・開催場所：秋田県生涯学習センター分館ジョイナス
- ・大会内容（報告）

平成23年度日本造園学会東北支部大会は、「次世代に繋げる東北のランドスケープ遺産 祖庭長岡安平の世界」「東日本大震災をうけて、造園（ランドスケープ）は何ができるか」の2つを大会テーマとして、秋田県生涯学習センター分館ジョイナスを会場に開催された。15日は支部総会、長岡安平をテーマにしたシンポジウム、エクスカージョン1、交流会を行い、16日はポスターセッション、震災復興をテーマにしたシンポジウム、エクスカージョン2を行った。

《支部総会》

平成22年度事業報告、収支決算報告及び監査報告、平成23年度事業計画、予算及び事業経過について議案が提出され、いずれも異議なく承認可決された。（参加者14名）

《シンポジウム》

1日目は、進士五十八氏（東京農業大学名誉教授）より「これからの日本のランドスケープ、長岡安平こそその原点」と題して基調講演が行われた。（参加者57名）

2日目は、渡部桂（東北芸術工科大学）のコーディネートのもと、温井亨（東北公益文科大学）、土方吉雄（日本大学）、森山雅幸（宮城大学）がパネラーとなり、東日本大震災に関する報告や復旧・復興に向けての考えを述べた。後半は参加者を交えたディスカッションが行われた。（参加者32名）

《ポスターセッション》

10件の発表が行われ、活発な質疑応答が行われた。（参加者32名）

《交流会》

会員、学生や関連業種の方々など、参加者相互の交流と親睦を深めた。（参加者25名）

《エクスカージョン》

エクスカージョン1（15日）は、秋田市建設部公園課小玉邦彦氏、川辺幸子氏の案内により、長岡安平設計の秋田市千秋公園を見学した。（参加者50名）

エクスカージョン2（16日）は、大仙市教育委員会文化財保護課熊谷直栄氏の案内により、長岡安平設計で、奥羽三大地主として知られる旧池田氏の本家・分家の庭園を見学した。（参加者25名）

(7) 中部支部大会

・開催日程 平成23年10月29日(土)～30日(日)

・開催場所 名古屋大学(名古屋市)

日本造園学会中部支部大会は平成23年10月29日(土)～30日(日)名古屋大学において開催された。(大会実行委員長 夏原由博:名古屋大学大学院教授)

スケジュール:29日 見学会・交流会 30日 総会・研究発表・事例報告会・公開シンポジウム

大会参加者:大会参加者 72名・研究発表・事例報告(口頭発表3会場 27件、ポスターセッション9件)

《見学会の開催》

・10月29日 愛・地球館記念公園及び東山公園

《支部総会》

平成22年度事業及び会計報告並びに監査報告、平成23年度事業計画及び予算案が承認可決された(本部から小野理事)。

《公開シンポジウム》

10月30日 公開シンポジウム 参加者約55名

・基調講演:谷川寛樹氏(名古屋大学大学院教授)

「持続的都市のあり方」

・パネル・ディスカッション

丸山宏氏(名城大学)

小池敦夫氏(財)名古屋建設事業サービス財団)

夏原由博氏(名古屋大学大学院)

《東日本大震災に関する学生デザインワークショップ参加報告》

名古屋大学大学院の夏原教授と学生2名が参加し、その報告があった。

2) 各種委員会活動等

分科会、シンポジウム、ミニフォーラム等の活動を行うと共に、受託等による調査研究を進めた。

(1) 分科会

・平成23年11月13日(日)東京農業大学世田谷キャンパスにおいて開催した。

日時:平成23年11月13日(日)17:00～18:30

会場:東京農業大学世田谷キャンパス 1号館

1. 「新時代に向けたランドスケープマネジメント」
2. 「ランドスケープ教育と資格認定についての東アジア連携の可能性」
3. 「“アーバニズム”とどう向き合うか?その9 生存のランドスケープ」
4. 「市街地における集合住宅の緑の価値と課題を考える」
5. 「2050年生物多様性の世界」
6. 「公園遊具のリスクマネジメントの未来をみつめて」

(2) 公開シンポジウム

日時:平成23年11月12日(土)14:30～17:30

会場:東京農業大学世田谷キャンパス 百周年記念講堂

テーマ：「2050年の国土創成にむけて—災害からの社会資本の再生—」

目的：「造園は大地の上に築き上げた一大芸術作品であると言っても過言ではない。」と上原敬二が述べているように国土の隅々まで造園を展開する場がある。造園は科学と芸術との分野にまたがり、大地に根ざし、自然を大観し、美を認識し、そして個性豊かな新鮮な作品を大地に作り出している。その大地で人々は、生活のためのさまざまな生業を営んでいる。

国土で展開されている産業と造園の特性について議論することで、生物を対象とし、水圏を含む大地に根ざし、現代に遺された財産である国土と自然を生活の源として、将来を計画・設計する造園の役割について確認することを目的とする。

大地で展開されている生業は、まさに国土の上で営まれている産業ということができよう。特に生活の基本となる一次産業は、大地はもとより自然からの恵みによって成り立っている。国土の荒廃と秩序の喪失は産業の衰退を意味し、生活の基盤が揺らぐことを示している。

近年、里山の再生と管理が話題を集めている。しかし社会情勢を背景に農村や中山間地域の生活様式が変化することを予測して、生業が成立するための条件を付帯した地域計画が行われてきただろうか。都市の拡大は緑地の減少につながり、さらに水圏の制御と狭小化や減少は、当然のこととして河川の形態と景観を変化させている。陸域におけるこれらの現象は、国土を取り巻く海洋への影響としても展開されることになる。これらの課題への対応策は、自然災害による被災から立ち上がる際の契機と方策をも示唆してくれると考えられる。

アメニティとともに安心・安全な生活空間の創出を主眼とする造園は、産業の基盤となる自然と環境を対象とする技術であり、生業の成立そのものにも共通するものである。これらの範囲からさらに震災への復興支援まで含めた広めた視野を持って対応することで、安定した生活と美しい景観を持続的に展開する方向を追求することが造園の使命であると考えられる。

(3) ミニフォーラム・ポスター展示

・ミニフォーラム

日時：平成23年11月13日（日） 11：15～16：45

会場：東京農業大学世田谷キャンパス 1号館

1. 「自然公園のリスクマネジメント：事故の実態と利用者の認識」
2. 「高速道路造園の過去・現在・未来をつなぐ」
3. 「高度専門職業人としての環境・造園系技術者養成のあり方（その2）」
4. 「東北地方太平洋沖地震にみる海岸保全の展望～沿岸域の土地利用と海岸生態系」
5. 「ランドスケープにおける森林美の今日的実践」
6. 「造園学会COP10 学生会議」

・ポスター展示

日時：平成23年11月12日（土） 10：30～17：30

11月13日（日） 9：30～18：30

会場：東京農業大学世田谷キャンパス 1号館

1. 平成22年度第37回全国造園デザインコンクール入選作品展示
2. 2020年の江東区における生物多様性の姿
3. ドイツの樹木保護条例の実態と特徴
4. （社）日本造園建設業協会が実施する資格制度について

5. 造園CPD制度の動向

(4) 報告・その他

- ・全国大会公開シンポジウム報告（75巻4号）
- ・全国大会ミニフォーラム報告（75巻4号）
- ・全国大会ポスター展示報告（75巻4号）
- ・全国大会分科会報告（75巻4号）
- ・全国大会ベストペーパー賞選考結果（75巻4号）
- ・全国大会学生公開アイデアコンペ報告（75巻4号）
- ・全国大会学生小論文コンクール報告（75巻4号）
- ・学会賞・上原敬二賞・特別賞の選考結果報告（75巻2号）
- ・学会賞受賞者業績要旨（75巻2、4号）
- ・上原敬二賞受賞者インタビュー（75巻4号）
- ・支部活動報告（75巻4号）
- ・ランドスケープ研究「特集企画」
 - 都市近郊におけるゴルフ場の生物多様性保全における役割（75巻1号）
 - 生物多様性とランドスケープ—COP10に沸いた2010年を未来につなぐ（75巻2号）
 - 東日本大震災復興支援：ランドスケープの学術・技術・芸術に何が可能か（75巻3号）
 - 平成23年度全国大会 公開シンポジウム・復興支援ワークショップ報告（75巻4号）
- ・行政情報（75巻1号）
- ・生き物技術ノート（75巻1、2、3、4号）
- ・海外の造園動向（75巻1、3、4号）
- ・弔文（75巻3号）

※ 研究発表会セッション報告については、大会の延期に伴い、76巻1号に掲載の予定

3) 出版物の刊行

- (1) 機関誌「ランドスケープ研究」の発行（75巻1～4号）
- (2) 研究発表論文集の発行（75巻5号）
- (3) 造園作品選集の発行（75巻増刊）
- (4) シンポジウム・分科会講演集の発行

4) 学術の交流

内外学術諸団体等との連絡および提携を進めた。

(1) 国内交流

- ・日本農学会
- ・日本学術会議
- ・JABEE（日本技術者教育認定機構）
- ・建設系CPD協議会
- ・日本ユネスコ協会他

(2) 国際交流

・平成23年10月3日に東京大学において、社団法人都市計画学会との共催で、Dr. Terry G. McGee氏の講演会“Rural-Urban Relations in the Mega- Mega-Urban Regions of East Asia”「東アジア大都市における都市農村混在地域」を開催した。

5) 調査及び研究

委員会等による調査・研究活動をはじめ、公的機関等からの受託研究による学術的、実務的調査研究を進めた。

(1) 小田原市・清閑亭(旧黒田侯爵家小田原別邸)庭園基礎調査

(2) 東日本大震災復興支援調査とりまとめ業務

6) 業績の表彰

選考規定に基づき、学会賞等の業績の選考を行った。表彰は平成24年5月の総会の席上で行い、表彰状、賞牌等を授与する。

(1) 日本造園学会賞

・本賞は、造園に関する学術、技術および芸術の進歩をはかるため、造園に関し特に優秀な業績をあげた会員に授与する。「日本造園学会賞」は研究論文、技術、設計作品の3部門があり、また、各部門に「奨励賞」が設けられている。

①研究論文部門 一平澤 毅：文化的資産としての名勝地の研究

②技術部門 一辻本 智子：兵庫県立淡路夢舞台温室・奇跡の星の植物館の展示に係るプロデュース、設計、施工、管理運営に関する造園技術

③設計作品部門 一向山 雅之：神宮前一丁目民活再生プロジェクト

④奨励賞

1) 研究論文部門 一雨宮 護：公共空間における子どもの被害防止に関する一連の研究

一荒牧まりさ：生物多様性国家戦略等の行政計画の策定方法に関する基礎的研究

一番匠 克二：日光国立公園戦場ヶ原湿原における保全対策に関する研究

一平松 玲治：国営公園の管理運営に関する一連の研究

一加藤 博：アンケート等による文化財庭園の保存・管理に関する意識調査

一國井 洋一：ビデオ画像を用いた自然風景地の歩行景観分析に関する研究

一村上 暁信：フィリピン・メトロマニラ近郊における都市化と緑地の変容に関する研究

一天白 牧夫：人里空間における淡水生両生類・は虫類の生息環境の分析

一手代木 純：環境改善を観点とした特殊空間緑化に関する一連の研究

2) 技術部門 一萩野 一彦：造園空間整備プロセスにおける計画、設計、施工、管理のあり方に関する一連の技術報告

3) 設計作品部門 一植田 直樹：丸の内パークビルディング・一号館広場およびその他の作品

(2) 上原敬二賞

・本賞は、造園の分野において著述、教育あるいはその他広範な社会活動を通じて造園の進歩・発展ならびに啓蒙に多大な貢献をしたと認められるものに授与する。

一該当者 なし

(3) 日本造園学会特別賞

・本賞は、自然と文化の保全を図り調和のある、新しい環境の創造に寄与した優れた造園に関する業績（著作出版業績を含む）に授与する。

ー進士五十八：『日比谷公園～100年の矜持に学ぶ』著作出版業績

ー若生 謙二：『動物園革命』著作出版業績

7) 技術の評価

造園CPDプログラム認定委員会において、毎月2回実施する電子会議にて、造園CPDに関わる継続教育プログラムとして申請された研修等の実施計画・内容等を精査し、学会が認定する造園CPDプログラムとしての可否等について審議した。その結果、平成23年度実施分のプログラム457件、平成24年度実施予定のプログラム0件を認定した（平成24年3月31日現在。なお平成23年度開催の認定プログラムは、前年度に認定した11件と合わせ合計468件）

8) 高度専門職業人としての環境・造園系技術者養成

高度の専門性が求められる職業人養成の機運を受け、平成21年に全国初の環境・造園系専門職大学院が開設された。環境・造園に関する深い学識や卓越した能力を培う技術者の養成が始まり、修了生にどのような能力を期待できるのか注目されているが、この専門職大学院は、第三者機関による認証評価が求められている。

さて、（社）日本造園学会では、環境・造園系技術者養成について、造園CPD制度やJABEEにおける教育プログラム認定等を通じて、技術者の自己研鑽・能力向上を図ってきたが、さらに、「環境・造園系専門職大学院等の認証評価組織に関する検討委員会」を設置し、環境・造園系の高度な専門性を有する職業人がどうい存在か、その教育をどのように行うべきかなどの、環境・造園系高度専門職業人の役割を社会に明示することを目指し、評価制度や評価組織のあり方、認証評価機関としての認証を受けるための準備等についての検討を進めた。

平成23年度は同検討委員会を引き継ぎ、「JABEE・専門職認証評価合同委員会」を設置し、全国大会ミニフォーラムにおいて、環境・造園系の高度専門職業人の将来像と人材養成のあり方等に関する意見交換を行った。また、認証評価基準案に対するパブリックコメントを通じて認証評価基準を見直し、平成24年3月26日付で専門職大学院認証評価機関申請書を文部科学大臣宛に提出した。

9) ビジョン・タスクフォースの提案を受けた将来ビジョンの具体化の推進

主に、公益法人化に向けた活動を行った。定款の改正案の作成、平成24年度事業計画及び収支予算、平成23年度事業および決算報告の作成、総会資料の作成、共催・後援及び協賛規程の見直し等の諸規程の改定、支部の規程の見直し及び予算・決算等の支部対応、会員サービスの向上に向けた会員のEメールアドレスの収集、学会WEBサイトのリニューアルの検討等を行った。

10) 東日本大震災への対応

昨年3月11日の大震災発生以降、震災復興支援調査委員会を組織し、様々な側面から被災地の復旧・復興支援に関わる活動を続けてきた。4月下旬～5月にかけて第一次調査を実施しその成果を報告書にとりまとめ、調査対象となった被災地の自治体に配布したほか、学会のホームページにおいても広く公開した。また第二次調査では、その支援調査活動の報告を『復興の風景像』～ランドスケープの再生を通じた復興支援のためのコンセプトブック（仮称）として出版することとした。

1 1) 造園CPD制度の推進

平成23年度は、前年度に引き続き、造園CPD協議会構成団体との連携を保ちつつ造園CPD制度の円滑な運営と造園CPD制度の広報・普及活動をおこなった。また、建設系CPD協議会と連携し、建設系CPD協議会事業に協力した。

制度の運営や広報・普及活動、制度に関する各種課題を検討するために、造園CPD推進委員会（平成23年4月19日）と企画会議（平成23年4月15日、9月6日、12月6日、平成24年2月10日、3月23日）を開催し、さらに随時企画会議メンバーでEメールを用いて各種の検討を行った。

造園CPD制度の運営については、次の業務を行い会員の利便に供した。

- ・造園CPD関連システム（会員登録、実施記録登録、実施記録登録証明書の申請、プログラム認定申請等）の運営
- ・造園CPD会員の入退会、会員区分異動の対応
- ・会員証の発行
- ・実施記録登録証明書の発行
- ・プログラムの認定にかかわる諸業務
- ・会員、造園CPD協議会構成団体からの各種問い合わせの対応

造園CPD制度の広報・普及活動としては、造園CPD制度ホームページの随時更新、日本造園学会全国大会におけるポスター展示「造園CPD制度の動向」の実施、建設系CPD協議会主催シンポジウムでの解説パネルの展示を行った。また、国土交通省に建設系CPD協議会を通じて造園CPD制度の情報を提供、中建審・社整審基本問題小委員会「中間とりまとめ」において技術者の資質向上の取組への適切な評価が行われるよう技術者データベースにCPD実施記録情報等の登録ができる旨が示された。

造園CPD制度の改善としては、財政基盤の確立に関する検討や、認定プログラムの新しい実施方法に関する情報収集を行った。さらにH24年4月1日からの学会の公益社団法人への移行、造園CPD事務局の学会への移管及び造園CPDの社会的活用の進展等に対応し、造園CPD制度の一層の推進を図る一環として、造園CPD事務局体制の整備、造園CPD事業の安定的・持続的な運営基盤の整備、造園CPD登録実施記録の審査体制の整備等を図るため造園CPD事業を所掌する造園CPD推進委員会設置規約等について必要な改正の検討を行った。

これらの活動により、平成23年度末の会員登録者数は8364人（前年度末数9,556人）、認定プログラム総件数468件（前年度429件）となった。

建設系CPD協議会との連携については、協議会への委員派遣、情報交換を行った。また協議会主催のシンポジウムの運営に協力した。

1 2) 情報化の推進および図書資料・データベースの利活用

会員に対する情報提供の手段や公益性の高い情報の発信が必要とされる中で、学会ホームページやメール連絡等オンラインでの情報提供の充実は、公益社団法人への移行も踏まえると重要な課題である。そこで、情報化の推進に関しては、学会ホームページのさらなる改善方針と会員および公共への情報提供のあり方について検討を行った。図書資料やデータベースの利活用に関しても、オンラインによる学術論文掲載を引き続き運営し、さらなる拡充方針について検討を行った。

1 3) 学会事務局の整備と財政健全化方策の推進

学会事務に関しては、会員管理システムを整備し会員の動向を把握するとともに、連携して会費等の納入状況が把握できる会計システムを運用した。公益法人会計に対応した会計システムを導入し試行を行いつつ、その構築を行った。また、財政健全化方策の推進に関しては、調査研究の受託等による収入の増加に向けて努力するとともに、印刷製本費および通信運搬費を中心とした支出の抑制を実施した。さらに、税理士事務所、公益法人として適正な財務運営を図るために必要な業務を委託した。

1 4) 公益法人制度改革への対応

総務委員会内に設置されたタスクフォース委員会等を中心に検討作業を進め、理事会や総会での議論を経て、平成23年11月に内閣府公益法人等委員会あてに移行認定申請を行った。その結果、平成24年3月に移行認定がなされ、平成24年4月1日付けで公益社団法人に移行することになった。

これに関連して学会運営の見直しを図った。全ての学会事業を「造園に関する調査研究、出版、講習・研修、専門教育推進・評価、表彰を通じて、造園に関する学術および技術の進歩をはかり社会の発展に貢献する事業」という一つの公益目的事業として位置づけた。また、公益社団法人としての適正な運営を図るために、定款、学会の運営に関する規程、役員の報酬等に関する規程等を改定した。さらに、それ以外の学会の運営に係わる諸規程・規則の改定についても検討した。なお、会計システムについても、会計基準、勘定科目等の見直しを図り、公益社団法人移行後の運営に対応できるようにした。